

| 令和元年度 第1回瀬戸市環境衛生審議会議事録 | | |
|--|--|--|
| 日 時 | 令和元年7月16日(火) 午前10時から午前12時まで | |
| 場 所 | やすらぎ会館2階 201会議室 | |
| 出席者 | 委 員 | 出席者：小林委員、藤井委員、伊藤委員、加藤委員、 田中委員、服部委員、眞野委員、三浦委員 欠席者：なし |
| | 事務局 | 藤井市民生活部長 (環境課) 山内課長、長江課長補佐兼環境保全係長、 平川ごみ減量係長、石垣ごみ減量係主事 |
| 傍聴者 | | 3名 |
| <p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長江補佐から会議成立の報告 ・藤井部長から挨拶 <p>2 議事</p> <p>(1) 会長及び副会長の選任について 委員の互選により会長：小林委員、副会長：藤井委員に決定した。</p> | | |
| 会長 | 瀬戸市のごみ排出量は5年間で減少していない。財政を伴った施策が難しい中、ミックスペーパーの取組を行ったり、ごみ減量推進会議を精力的に開催して議論していただいたが市民へうまく伝わっていないという背景がある。5月に食品ロス削減推進法が成立し、また廃プラスチックの問題も話題になっている。瀬戸市が今まで取り組んできた食品ロスのことも国全体として進める流れになっており、うまくとらえてほしい。活発なご意見をいただきたい。 | |
| (2) これまでの取組内容について | | |
| 事務局より「基本方針を実現するための施策の体系」実施状況と実施の方向性及び重点テーマ毎の達成状況と達成のための方向性について説明。 | | |
| 会長 | チラシのグラフを見ると、市民一人当たりのごみ排出量は減っていないが、リサイクル量は除いた数値であり、実際に焼却する必要のあるごみ量である。また瀬戸市で年間7億円ものごみ処理費がかかっている。可燃ごみへの食品ロス、紙類混入率については、私も組成調査に携わっているが、紙類の混入率は高い。まだ食べられるのに捨てられた食品ロスの混入率も高い。 | |
| 委員 | 組成調査を5年ほどやってきて、食品ロス、紙類の比率はあまり変わっていないか。 | |
| 会長 | 変わっていない。 | |
| 委員 | ごみ量が減っていないとあるが、事業系ごみが増えていることが要因なのでは。アベノミクス等の影響もあり、事業系ごみが増えてきており、その | |

| | |
|-----|--|
| | 影響が大きいのでは。 |
| 事務局 | 事業系を含んでいるが、全体の割合としては家庭系に比べると大きくない。 |
| 委員 | データをみると、事業系ごみが前年対比 106%となっており、表だけ見ると事業系ごみの影響が大きいように見えた。 |
| 事務局 | 事業系ごみが増えていることは事実である。また事業者から出る廃棄物は、事業系一般廃棄物と産業廃棄物があり、市で把握できるのは事業系一般廃棄物のみだが、減っておらず若干増えていることは現実である。 |
| 委員 | 基本計画の p.12 を見ると、およその割合が掲載されている。 |
| 事務局 | 可燃ごみの事業系と家庭系の比率をみると 9 割以上を家庭系が占めている。 |
| 委員 | 平成 25 年から 30 年度までごみ量の変化がないとしたら、今やっている方策は、厳しい言い方になるかもしれないが間違っていると言えるのではないかと。何をやって何がだめだったのかをさらけ出すべきでは。じゃあどうしたらいいのかは、知恵を使わなければならないが。 |
| 事務局 | 平成 26 年度からの 10 年計画が、瀬戸市一般廃棄物処理基本計画であり、ごみ減量施策を概要版としてまとめたものが配布資料である。昨年が計画の中間年度であったため見直しをさせていただいた。施策は網羅的に書かれているが、まだできていないことが結構ある。方向性の分類について「意識向上、協働」の部分が「拡大」となっているが、すでに取り組んでいるもののまだ取組が弱いと、強化しなければならないということである、のちほどの議題にもなるが、家庭ごみの適正負担の検討については、ごみ減量施策の一つとして計画に掲げられていたが中間年度までには取り組んでいなかったため、計画の後半に「着手」していこうという結論になった。中間見直しの結果、「様々な媒体や機会を用いた情報提供」これは、行政は市民に情報を伝えることが下手なため、しっかりやっていくということが一つ。「家庭での生ごみの発生抑制や減量手法等の普及啓発」は、生ごみや食品ロスが家庭からたくさん出ているためそれをターゲットに減量を進める。ごみの中身をみると 10%以上の「紙類」が含まれているため、分別強化することで 10%以上の減量が期待できる。それから先ほど説明した「適正負担の検討」といった黄色の網掛けがしてある 4 点を重点的に、メリハリをつけたごみ減量施策をやっていくべきだということで整理をさせていただいた。足りない部分を「拡大」「着手」していくことで市民と一緒に取り組んでいかなければならないと考えている。 |
| 委員 | 広報活動はしていらっしゃるが、市民に知られていない。広報の中で、ごみの記事を見てくれるのだろうか。目を引くようなタイトルを打ち出したり、字を大きくしたり、回数を増やして市民に完全に知らせる必要がある。また市民からの反応を得て検証してみてもどうか。そうしないと市民への徹底はできないと思う。 |
| 事務局 | 広報は字が小さかったり紙面に限りがあるのは事実である。全戸配布され |

| | |
|-----|---|
| | る広報に、チラシを折り込むことで見ていただくきっかけになるのではと いうことで、今回チラシを作成した。 |
| 委員 | 町内会に徹底されているか。町内会での反応を得られれば、知ってもらえ たんだと考えられるが、ただ単に流すだけでは市民は知らない。反応が 戻ってくるかどうかが大変である。 |
| 事務局 | 今年度、市民向けにアンケートを実施予定である。また地区ごとにごみに 関する説明会を実施し、市民に直接説明する機会をもうけることで、実際 に反応を見させていただくことを考えている。自治会の協力も得ながらや っていききたい。 |
| 委員 | 現状の1人1日あたりのごみ排出量が727gとなっており、平成30年 度時点の排出量目標は663g。食品ロス8%、紙類混入率が15%あるが、 これを減らせれば目標達成していることになる。5年後にいきなり減るこ とはないと思うので、どういう数値目標でされているのかをまず出てこな いと、それに対する方法は出てこない。例えば、市全体でやるのが難し ければモデル地区を作って試し、成功したら展開していくなどの方法があ る。何らかの方向性はつけたほうがよいと思う。 |
| 委員 | 数値目標自体の見直しが必要なのは。計画策定時の数値目標自体、読み が甘かったのでは。5年前に17%の削減目標を立てたのは、その時点で は正しかったかもしれないが、5年たってこういう状況を顧みたときに正 しかったのかという検証はされていない。 |
| 事務局 | 昨年度の見直し時に、目標数値も議論を行った。詳細なシミュレーション ができていないがごみ量が下げ止まっている状況を踏まえて考え、目標に 掲げられているがまだまだできていないことがたくさんあるため、目標を 下げることなく努力していこうという結論になった。先ほど、眞野委員が おっしゃるように、食品ロスや紙類を減らすことで目標に近づける可能性 もある。 |
| 委員 | 目標に対しての説明責任が足りないのではないかと。具体的な数値や検討材 料がないのに、言葉だけで言われても実証できない。5年後、10年後の シミュレーションをかけたものがあるならわかるが。 |
| 会長 | この計画策定に携わっていたが、10年計画を策定するにあたってどのご みがどれだけ出ており、どれだけ減らせるというデータさえなかった。そ のため組成調査をすることから始めた。そして数値を把握し、紙類や生ご みはこのぐらい減らせる可能性があるということで設定した。その後、ど ういう施策をうって、どのぐらいの効果があって、効果を得るための方法論 が足りなかったのは事実。その中で、ミックスペーパーの回収をスタート するなどしたが、財政的な事情もあり、強力な施策を次々にということ はできていない。マンパワーの関係もあり、メリハリをつけてやっ ていこうと決めた。財政やヒューマンリソースの関係をみてバランスよく進 めていくことが大切であり、その状況のなかでごみの有料化も一つの方策 ということで議論していく。 |

| | |
|--------------------------|---|
| | 目標設定に関しては、景気回復のことは計画策定時に想定しておらず、景気回復により事業系ごみが増えていることも事実である。中身を見ればもっと減らせるのではないかという思いもあるが。 |
| 委員 | 調査に費用をかけなかったというのが、問題意識が若干低いのではないか。お金を使って委託していれば、自分たちの説明に根拠もでてくる。 |
| 会長 | 環境課のホームページを見ても、ごみが減っていないことを伝える記事は見当たらない。 |
| 委員 | 市民一人あたりのごみ量727gをいかに減らしていくかである。「食品ロス」と「紙類」をそれぞれ半分ずつ減らすことができれば、令和元年度の目標値に届く。この2点にターゲットを絞って他の取組の優先順位を下げるなど、早くゴールにたどりつく努力をすることが近道だと思う。 |
| 会長 | 環境課で検討してほしい、私も同じ思いである。生ごみ減量には、水切りも大切である。簡単だけど効果があるため、ごみ減量推進会議で方法含めて議論していただきたい。 |
| 委員 | ごみに関心のない人に伝える、記事を読んでもらうことが私たちにとっても難点である。主婦にとってごみは身近にあるため、意識することは簡単である。ごみ量を分析して重点的に減らすという考えもわかるが、まずは市民に納得してやってもらわないといけないと思う。水切りのように、できることからまずやってもらいたい。それで少しでも改革されればということをごみ減量推進会議でも考えていることである。 |
| 委員 | 自治会の中でごみの説明をしても、その場かぎりでなかなか広がっていかなかったのが現状。ミックスペーパーについても、資源化できる物がたくさんあるのでこれを情報として流すというように、ごみに関する情報を地域におとせるようにがんばっているし、やっていきたいと考えている。先日も自治会のメンバーと資源リサイクルセンターでごみの説明を受けてきたが、関心を持ってくれた。そういった場へ連れていく、それがごみ減量につながると思う。 |
| 会長 | ごみを減らすことが、自分の利益につながるということであれば関心をもつ。インセンティブを持たせることが必要である。 |
| 委員 | その通りだと思う。自分にとってよくなるのかそうでないか、そこを市民は考える。ただごみが多いといわれても「多いんだな。」で終わってしまう。ごみを減らしたほうが自分自身にとってよくなるということになれば、減らすようにする。 |
| 会長 | 「ごみを減らせば得をする」もしくは「ごみを減らさないと損をする」。できれば前者のほうがよいが、こういったアプローチも一つの手である。 |
| 委員 | ごみ袋の金額を上げれば、ごみを出さないようにする人が増えるからごみは減ると思う。 |
| (3) ごみ処理費適正負担の検討について | |
| 事務局よりアンケート案及び説明資料について説明。 | |
| 事務局 | アンケートは案のため、議論の内容によって変えていくことも可能。環境 |

| | |
|-----|--|
| | <p>省が数年前からごみ処理経費の一部については市民にもある程度求めていけばということで、有料化の手引きを作成して市町村に示している。その中で目的としてごみの排出抑制やリサイクル、再生利用などの促進につながり、一定程度の費用負担をすることで減量しようという動機付けが生まれ、結果としてごみ排出量が減ることが期待される。もう1つは、有料化により住民や事業者の意識改革ができ、ごみに興味を持ってどうすればごみを減らし袋を買わなくてすむかを考えてもらえる。その他にはごみを減量することによって最終処分場の延命化が出来る。またごみ処理施設は、一定程度使っていくと痛んでくるため延命化工事を行っているが、約50億円かかり、工事中に別の焼却施設に処理を頼むと、別に経費が発生する。その後、建て替えしなければならないが、ざっくり計算すると250億円前後の費用が発生する。通常のごみ処理でも経費がかかるが、施設の延命化にかかる費用も非常に高くかかってくるため一部市民の皆様にもごみを排出する側として少しご負担をいただけないかということでこの審議会で検討いただいている。</p> |
| 会長 | <p>適正負担とは一言で言えば有料化。適正という言葉は、公平性の確保ということ。適正負担は有料化ということだ。「適正」という言葉は、公平性の確保ということ。市外に住民票がある方でも、瀬戸市でごみをたくさん出す場合は、瀬戸市の袋を買ってもらうことで排出量に応じて処理費の負担をしてもらえる。焼却施設の延命化や更新工事費用の捻出については、市全体の財政の話になるため、こちら側はごみ減量ということが重要である。アンケート内容は、非常に重要なテーマでありぜひご意見をいただきたい。スケジュール案はあるが、必ずしも2月下旬に方向性を決定することではない。しっかり議論して進めてほしい、スケジュールありきではない。</p> |
| 委員 | <p>このアンケートをする際、なぜ今のタイミングなのか。昔から計画にはあげられていた内容だと思うので、どう答えるか。また会長が言われたように、「適正負担」より、「有料化」という言葉のほうがわかりやすい。処理費用が7億円かかる、処理施設の工事費用、最終処分場の問題がみんなが一番関心を持つ。そのため、アンケートでは市が答えを出すのではなく、問題提起してほしい。市民側に「あなたが市長だったらこの問題に対してどうするのか」ということを聞いて欲しい。なんでもかんでも行政任せという時代ではないと思う。</p> |
| 事務局 | <p>平成26年度からのごみ処理基本計画の中に、10年間の計画期間中にごみ処理費の適正負担（有料化）を検討するという位置づけになっている。昨年、中間見直しをした際に、メリハリをつけて行う施策の一つとして、審議会からも答申をいただいた。ごみ量が減り止まっている現状や環境省の通知などを踏まえて、どのようなやり方でやっていくべきか議論を始めるべ</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>きだということで、このタイミングで検討を始めた。ただ市民には伝えきれていないため、唐突感は否めないというのは仕方ないと思う。</p> |
| 委員 | <p>町田市は、有料化をごみ減量の切り札としてやっていた。市としてはごみ減量も必要だし、財源も必要というのは事実。アンケートの目的が意識調査であるならば、アンケート案で「問4」でごみ袋の値段を聞いているが、市はいくらにしたいのかを盛り込んでどうか。国は20～30円、長久手市は1枚15円、尾張旭市は検討の結果、当分やらないという状況で、瀬戸市が方向付けを出したいというのはわかるので、ダイレクトに情報を出しても良いのではないか。ごみを処理してもらえないのは困るので、上がるのは仕方ないと思う。</p> |
| 会長 | <p>ごみ処理は、市民税でまかなうべきとの考えを持っている方も多いので、有料化に反対する人は一定程度いらっしゃる。そのような方にどうやって納得してもらうのか。有料化で得られたお金はごみ処理に全額充当されるかといえば必ずしもそうではない。説明をしっかりと、情報を開示して今後どうしていくかを正直に市民に問いかける。建前は市民税でまかなうべきだが、さらに負担を求めることについてどう説明するかということである。反対の方にどう納得してもらうのかである。</p> |
| 委員 | <p>おっしゃるとおりである。下水道事業は「受益者負担金」という制度がある。ごみ処理を市民税でやってるから、それがやれないかどうかは法制度の色々な解釈があると思う。でも有料化を国も認めている以上、やり方はそれぞれの市町村に任されたと思っている。自分が出したごみを自分達で処理するのに反対も賛成もない、ただそれを反対するのは適正負担かそうじゃないかということに対しては反対だということであり、適正負担としてみんなが認めてくれれば総意だと思う。市民が賛成なのは当然大事な事だが、必要なものをどうやってとるか、それが確実にごみ減量につながるっていう事が見えるのであれば、それをやらない方法はないと思う。</p> |
| 会長 | <p>ありがとうございます。まず最初はごみの減量化、それから公平性の確保ということが重要である。</p> |
| 委員 | <p>家ではごみ袋を1個出しているけれども、可燃ごみの収集頻度の減少が可能であるならば、ごみは減量されるのでは。ごみ総量では、可燃ゴミ1袋あたりのゴミの量を約5キロとしてあるけれども、大体何枚ぐらい使われているのか。</p> |
| 事務局 | <p>重さについては、小林会長に協力していただいて組成調査をやる時に、色々な地区からゴミを集めてきたものを量ってその平均が5キロぐらいである。</p> |
| 委員 | <p>適正負担は、ごみ減量を目的にしているのか。資料を読んだだけでは、どっちの方向なのか。たまたま今日うち、私いつもゴミ出す係ですから火曜日、朝ゴミ出しますよ。袋がカスカスでも出しちゃいますし、火曜日と金</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>曜日には1袋ずつ出すっていう感じにしています。ごみの適正負担ということで処理費が上乘せされても、袋の中身が満杯でなくてもそのまま出すと思う、それぞれ考え方が違うと思うんですけども、我が家に関してはそれでもってごみ減量になるのかなっていうのは見て疑問に感じた。</p> |
| 事務局 | <p>目的としてはごみ減量と出す人の公平性の確保っていうものが大きな目的、行政の都合だがコスト面という事情もある。毎回値上げした袋を今まで通り出しているともったいないということで、例えば週2回出していたのを1回にしようとするのと1週間ずっと溜めておかなきゃいけないとなり、生ごみが臭うから対策をしてみようかという動機付けや、ごみについて考えるきっかけになるというのも有料化の1つの目的。</p> |
| 委員 | <p>生ごみの中に何か入れると匂いが消えるとかそういうのもありますよね。そうすると1週間持つんじゃないですか。</p> |
| 事務局 | <p>生ごみだけ別にしたい肥みたいなのを作っていたらいいところもありますし、生ごみ処理機ってあって、生ごみを乾燥させたり水分を飛ばしたりするようなものもあるみたいですし、瀬戸の山間地では自分の畑に入れ、土にかえていく。色んなやり方で、実際できるかっていうのは我々は色んなメニューを示さないといけないかなと。</p> |
| 会長 | <p>そのメニューは実際示していただきたい。</p> |
| 委員 | <p>アンケートの主旨がだいたいわかりましたけど、リサイクル、ごみ減量の動機付け、あとは公平性の確保ということですが、チラシに出ている、瀬戸市のごみは少ない方から数えて44位、目指せ1位というところで。仮に目指せ10位だとしたら、10位以内の他市町は何をやっているか、その内容も見てこのアンケートに反映できないか。成功事例に学ぶことが1番成功への近道なので。人口、住んでるエリアも違うと思うが、そういうところでうまく連動してなにか参考になることがあるなら、それをアンケートに盛り込んで質問してみるのもいいと思う。</p> |
| 会長 | <p>ごみが減るということに対する懸念は消費が減ること。</p> |
| 委員 | <p>そういう心配をしてみたいです。</p> |
| 会長 | <p>それが直結しない方法もあるはず、物は買うけれどもごみは減るということもセットで考えなくてはいけない。そういう議論が出ると思うが、いわゆるwin winになるような方法を考えないといけない。こういう姿がいいよねという形の議論をしていただきたい。</p> |
| 委員 | <p>アンケート問6の選択肢に、可燃ごみの収集頻度の減少、ごみ集積場の集約化とあるが何か目的があって設定したのか。アンケート案を見た妻がこんなこと本当に実現できるのかと怒っていた。 また指定袋以外の他の袋で出せる分もありますし、庭木の選定枝などごみ袋に入れずに出せるものもあるが、このようなものも厳しくなるのかなと思う。</p> |
| 会長 | <p>ごみ処理に関してかかる費用があるが、収集運搬費に約4億円、焼却費用等で約3億円。ごみが減れば、費用も減ること。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | アンケートに対する意見として、反感を持ってしまうと素直な意見が出にくいいため、アンケートをやりやすく、すんなりやっていただくために工夫してほしい。 |
| 委員 | 例えば、ごみ処理費用の説明の下に、「問6」があったほうがわかりやすい。この説明があってこのアンケート、こういう問題があり、これについてどう思いますかというように1つずつ伝えた方が見た方は分かりやすいと思う。 |
| 会長 | 全部読んだ後に回答するのではなく、読みながら回答してもらおうということか。 |
| 委員 | そうです。 |
| 委員 | 男性と女性の意識はだいぶ違うなと思った。ごみを出すだけという方は、日にちがきたからゴミを持っていく。しかし女性の場合は1袋いくらで凄いゴミをいっぱい入れて袋の数を減らすなどそのくらい女性は節約に関して厳しい。小さいゴミ袋ではなく45ℓの大きなゴミ袋1つにいっぱい詰める。1週間に1回のごみ出しの場合は、エヒメA I など身近で出来るもので消臭するなど家庭の主婦はいろいろ考えている。 |
| 委員 | 主婦は考えてると思いますよ。男の人は考えてない、私もごみを持っていてだけです。 |
| 委員 | ごみ出しの中でごみの量が減ってないという事を意識してもらうことも必要かなと思う。今のアンケートが出来ただけ色んなことをくみとってもらいたいなと思ってお話を聞いていたが、説明を読みながらアンケートに回答するというのは面倒くさくないのかな、そんなことを考えていた。 |
| 委員 | そうしたら説明内容を簡単にしてわかりやすくする。たくさん書いてあったり数字ばかりでは読まない、大事なことを絞ってそれだけにハイライトすればよい。 |
| 委員 | 今の人は字を読まない。だから本当は、読みながらアンケートに答える方がわかりやすいとは思いますが、今眞野委員が言われたように簡略化できるのだったらそういう方法が良い、自分がアンケートを答えるときどうするかというのを考えていた。 |
| 委員 | シンプルにしていけばよい。例えば食品ロス、紙類に的を絞ってアンケート取れば、ある程度効果出るはずなんで、そうした方が近道である。目的はリサイクルと減量の動機付け、費用負担の公平化、これに特化した内容のアンケートにすればよい。 |
| 委員 | 数字が書いてあっても読まないと思うので、ごみ減量推進会議へ持ち帰り、考えたいと思う。 |
| 会長 | 思い切ってマンガにすることをやってみてはどうか。 |
| 委員 | 字ばかりではなく今まででと違ったものになると思う。 |
| 事務局 | これに関しては我々頭の固い行政だけでなくコンサルにお手伝いしていただくことが出来ましたので、ビジュアルなどの知恵を借りながらなるべく読んで、見ていただけたら適正に回答していただけるようなアンケートを工夫して作っていきたいと思っている。 |

| | |
|-----|---|
| 委員 | 先ほどの話題に関して、基本計画の58ページに参考資料として平成23年度アンケートがあるが、1人あたりのごみ処理費は思っていたよりも高いという方が半数以上、一方で有料化を導入すべきではないという方が63%。ここにいらっしゃる皆さまとは考えが違う方も多いのかなというところで、有料化を導入すべきではないという方々にいかに納得していただく方法を考えていくべきかなというところを思いながら皆さんのご意見を聞いていた。予想に反してと言ったら失礼だが、皆様有料化を含めて積極的なご意見を出されていたので心遣いも必要かなと思いながら聞いていた。 |
| 委員 | ごみ袋の値段を上げればそれだけごみを出さなくなる、出さないということはどうやったらごみを減らそうかということを考える。そういった方向で持っていったらどうか。1枚12円からぐーんと上げることについて納得させることは難しいと思うが、そうすればごみを減らそうということを考える。 |
| 会長 | 意見は出ていなかったが、ごみ出しのお手伝いに対する必要性など、全体を考えて意見をしていくことが必要だと思う。 |
| 委員 | ごみ出しの難しさに関して、どんどん高齢化していくと思いますが3年後4年後5年後、どういう風になるかというシミュレーションはありますか。例えば5年後体が動かなくなるとごみが出せないからどうしようとなった場合、何か考えないといけないとは思いますが。 |
| 会長 | 実際そのようなサービスはあるのか。 |
| 委員 | それがどこまでいきわたっていて、誰が知っていて誰が知らないかという話になると思う。1回何かPRする方法、いわゆるどうゆうPRを高齢者にやりましたというところですね。もし皆さん知ってればですけども、高齢者が5万人いて3万人知らなかったら、まずそこからですよ。誰が知っているのかと、それをそもそも、誰が知らないのかというのがありますし、まず数を確認したうえでそこらへんの地域では知らない。そこはやっぱりモデル地区を定めて、事例を展開していく。そのような動きをしないと繰り返してしまおう。 |
| 事務局 | ごみ出しが困難になってくるという人が増えてくる予測は我々もしています。詳細なシミュレーションはしていないが、介護が必要な単身者で、本当にごみ出しが困難な人に対してはふれあい収集という、自宅までゴミを回収に行くという制度は一定の部分のなかでも運営はさせていただいております。ただ、ごみ出しが困難な人が増えていくと、今の制度じゃ難しいだろうなということはある程度予測はしている。そこで一部の地域では地域力というなかでそういったゴミ出しの協力を近所の人をしてあげるとか、そういったことを始めているところもあるという風には聞いております。こういった色々なやり方ですね、ゴミ出し困難な人に対するケアもここでしてかなきゃいけない。高齢者だけの問題ではなくて、色々な方がごみ出し困難に埋もれていて目に見えない部分もあると思いますので、そこは課題としては検討していきたいと思う。 |
| 委員 | この地域ではこうやってやっていますというような事例があれば、他に困っている地域があるときに、ここではこのようにやっていますということを展開できれば、ヒントがあるかもしれない、1つの成功への近道かなと思う。 |

| | |
|---------------------------|--|
| 委員 | あと、高齢者福祉のほうでは「お助け隊」というシステムが今出来つつある。ごみ出しだけではなくて、高いところに手が届かないからお手伝いするというものである。 |
| 会長 | その他ご意見ございましたら環境課に言っていただければ。非常に重要な話ですので。 |
| (4) 一般廃棄物処理費用にかかる適正負担について | |
| 事務局 | 先ほどみなさんご覧いただいたこちらのチラシなんですが、8月1日の広報に織り込みで配布をさせていただきますので、こういったもの入ったら近所の方々にごみの現状はこうですよとお声がけをいただきたいと思っております、よろしくお願ひします。 |
| 委員 | 余裕分のチラシがあるならば、自分の団体でイベントの時に配ることも出来ますので。 |
| 事務局 | カラーコピー等でお渡しすることもできる。今後、皆様にアンケートの案を決める前段階で、郵送などでお示しをさせていただきたい。また説明会を中学校区ごとぐらいにやろうと思っておりますので、お知らせをしていく。アンケート実施後の分析結果は、都度、色んな形で皆様にも情報提供させていただきますので、何かお気づきの点がございましたらお寄せいただければと思ひますし、指導や助言をよろしくお願ひします。また、服部委員、伊藤委員が参加しているごみ減量推進会議という細かい検討をしていただいている会があるが、出入り自由になっておりますので、覗いてみたいということであれば寄っていただければありがたい。 |
| 会長 | ありがとうございます。今後の日程についてお願ひします。 |
| 事務局 | 今後の日程ですが、第2回環境衛生審議会を2月下旬に行いまして、今年度実施しているアンケートの結果をご報告としてさせていただく予定とはなっておりますが、先ほどもございましたように、こちらのスケジュールは仮ということにして、アンケート結果その内容を見させていただいてですね、早めに環境衛生審議会開かせていただき少し回数増やさせていただく可能性もございますので、少し頭の片隅に置いていただければと大変助かります。 |
| 会長 | ありがとうございます。それでは環境衛生審議会を終了します。本日はありがとうございます。 |

上記のとおり議事録を作成し、会長は記名・押印する。

令和 年 月 日

会長

印